

令和3年度環境放射線等測定結果

(島根原子力発電所及び人形峠環境技術センター周辺)

令和4年10月

鳥 取 県

ま え が き

鳥取県では、中国電力株式会社島根原子力発電所及び国立研究開発法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター周辺における地域住民の安全確保及び環境の保全を図るため、原子力施設の放射線を監視しています。

本報告書は、令和3年4月から令和4年3月までの監視結果について、鳥取県原子力安全顧問における確認（令和4年5月実施鳥取県原子力安全顧問会議等）を経て、とりまとめを行ったものです。

目次

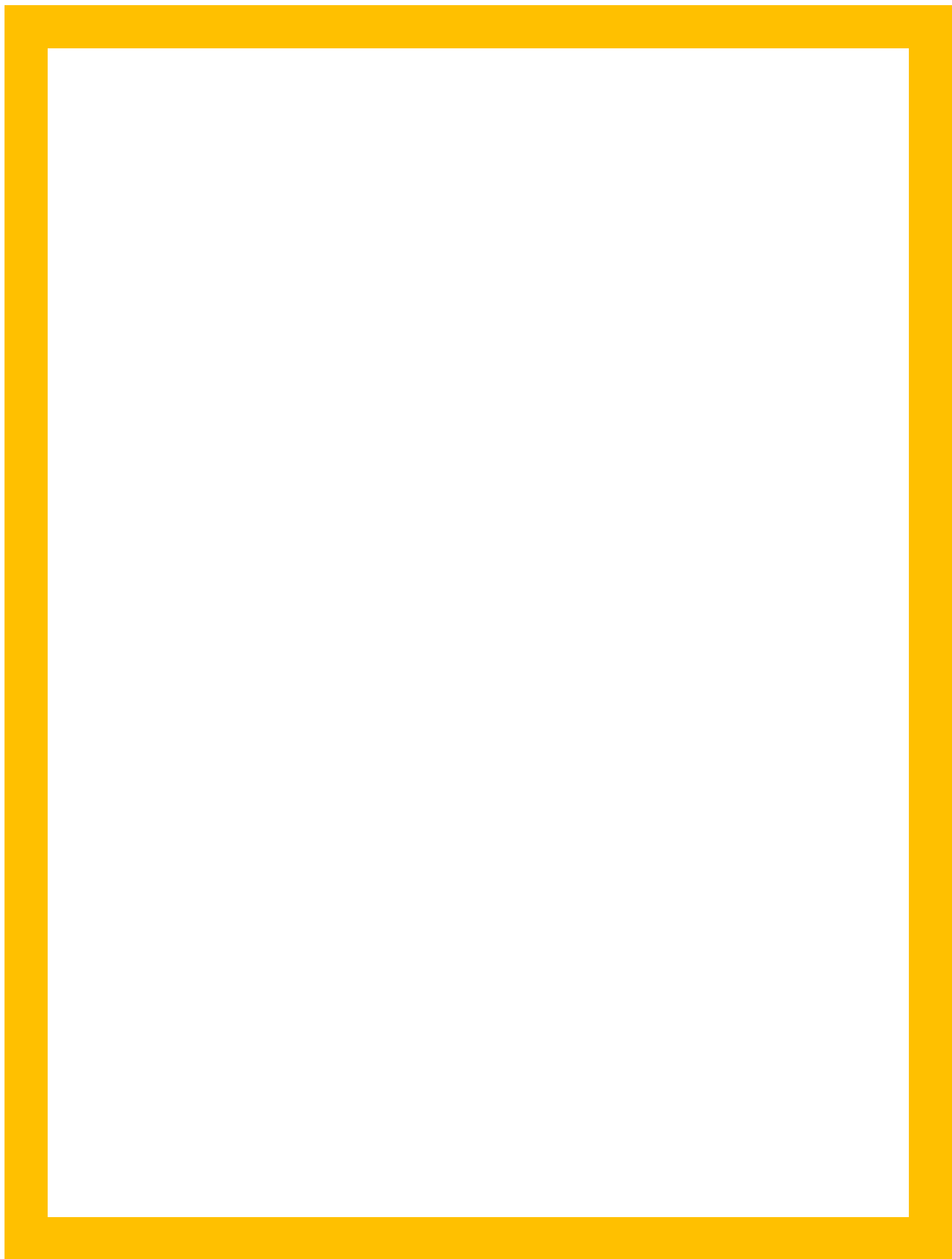
まえがき

	ページ
【Ⅰ 島根原子力発電所周辺】	
1 測定方法	1
(1) 概要	1
(2) 実施機関	1
(3) 測定項目等	1～6
(4) 測定結果の評価	6
2 令和3年度の測定結果	7
(1) 測定結果概要	8～14
(2) 測定項目別の結果	15～26
3 令和4年度の平常の変動幅	27
(1) 空間放射線	27～28
(2) 環境試料中の全 α 及び全 β 放射能	28
(3) 環境試料の核種分析	28～30
【Ⅱ 人形峠環境技術センター周辺】	
1 測定方法	31
(1) 概要	31
(2) 実施機関	31
(3) 測定項目等	31～35
(4) 測定結果の評価	35
2 令和3年度の測定結果	36
(1) 測定結果概要	36～41
(2) 測定項目別の結果	50
3 令和4年度の平常の変動幅	51
(1) 空間放射線	51
(2) 環境試料中の全 α 及び全 β 放射能、フッ素	52
(3) 環境試料の核種分析	53～56
【Ⅲ 平常の変動幅超過に係る検証】	
検証1 令和3年7月の境港局の全 β / α 放射能比の変動幅超過について	57～59
検証2 米子局における大気浮遊じん中のCs-137の検出について	60～65

【IV 参考資料】

1	可搬型モニタリングポストの稼働・通信訓練の結果	66
2	島根原子力発電所周辺における積算線量の経年変化	67
3	島根原子力発電所周辺における環境試料中の人工放射性物質の経年変化	68～72
4	人形峠周辺における空間放射線量率（移動局）、積算線量の経時変化	72～73
5	人形峠周辺における大気浮遊じん中の全 α 放射能、全 β 放射能（移動局）の経時変化	74
6	人形峠周辺における環境試料中の放射性物質等の経年変化	75～80
7	環境試料の測定結果に基づく預託実効線量（成人）	81
8	環境放射能の検出下限値	82～89
9	気象測定結果	90～101
10	平常の変動幅の上限を超過した場合の要因調査等の方法	102～104
11	用語集	105～107

【 I 島根原子力発電所周辺】



令和3年度平常時モニタリング測定結果

【I 島根原子力発電所周辺】

1 測定方法

(1) 概要

境港市及び米子市に設置している固定局及び可搬局によって空間放射線量率の測定を行うとともに、大気浮遊じんの全 α 及び全 β 放射能濃度測定を行った。また、環境試料中の放射性核種濃度の変動を把握するために、大気浮遊じん、降水物、陸水、土壌、植物等の核種分析を行った。

(2) 実施機関

原子力環境センター

(3) 測定項目等

ア 空間放射線

表 I-1-1 測定項目（空間放射線）

項目	測定地点	測定月	備考
線量率	境港市上道町(境港局) ①	連続	固定型モニタリング ポスト
	米子市河崎(米子局) ②		
積算線量	境港市上道町(境港局) ①	4～6月	蛍光ガラス線量計 (RPLD)
	米子市河崎(米子局) ②		
	境港市外江町(外江公民館) ③		
	境港市渡町(渡公民館) ④	7～9月	
	境港市竹内町(余子公民館) ⑤	10～12月	
	境港市財ノ木町(中浜公民館) ⑥	1～3月	
	米子市和田町(和田公民館) ⑦		
	米子市大崎(崎津公民館) ⑧		
	米子市彦名町(彦名公民館) ⑨		

<参考>

下記7カ所においては、緊急時におけるOIL判断に使用するとともに、放射線に係る理解向上など普及啓発と広報を目的に、平常時から空間放射線量の測定・データ公開を行っている。

- ③ 境港市外江町（外江公民館）
- ⑤ 境港市竹内町（余子公民館）
- ⑥ 境港市財ノ木町（中浜公民館）
- ⑦ 米子市和田町（和田公民館）
- ⑨ 米子市彦名町（彦名公民館）
- ⑩ 米子市大篠津町（大篠津公民館）
- ⑪ 米子市夜見町（夜見公民館）

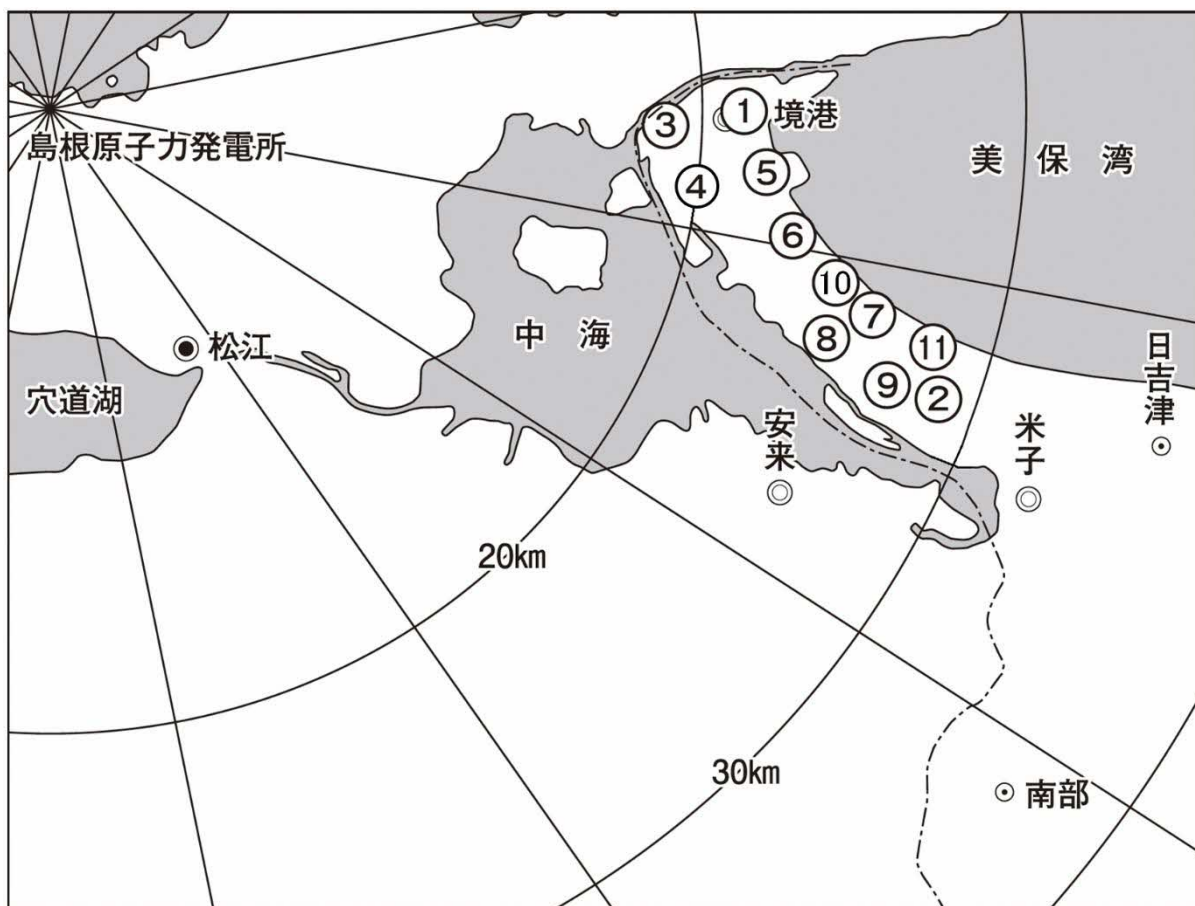


図 I - 1 - 1 調査地点図 (空間放射線)

イ 環境試料中の全 α 及び全 β 放射能

表 I-1-2 測定項目（全 α 及び全 β 放射能）

区分	測定地点	測定月	備考
浮遊じん	境港市上道町（境港局）	A	ダストモニタ
	米子市河崎（米子局）	B	
		連続	

ウ 環境試料中の放射性核種の分析

(ア) γ 線スペクトロメトリー

・対象核種：Mn-54、Fe-59、Co-58、Co-60、Cs-137、I-131

表 I-1-3 測定項目（核種分析）

区分	試料	採取地点	採取月
浮遊じん	浮遊じん	境港市上道町（境港局）	A
		米子市河崎（米子局）	B
降下物	降下物	境港市上道町（境港局）	A
		米子市河崎（米子局）	B
陸水	水道水（蛇口）	境港市上道町	A
	水道水（原水）	米子市河崎	B
		米子市福市 （米子市水道局福市着水井）	C
池水	境港市小篠津町	D	
植物	松葉	境港市幸神町	E
		米子市夜見町	F
陸土	陸土	境港市馬場崎町	G
		米子市河崎	B
海水	表層水	米子市葭津地先	H
		米子市大篠津町地先	I
海底土	底質（表層）	米子市葭津地先	H
		米子市大篠津町地先	I
農産物	精米	米子市夜見町	J
	白ネギ	境港市中海干拓地	K
	大根（葉、根）	境港市中海干拓地	K
海産物	ワカメ	境港市近海	4月
	イワガキ		7月
	セイゴ		10月
	ナマコ		3月

(イ) トリチウム分析

・対象核種：H-3

表 I - 1 - 4 測定項目（核種分析）

区分	試料	採取地点	採取月
陸水	水道水（蛇口）	境港市上道町 A 米子市河崎 B	5月
	水道水（原水）	米子市福市 C （米子市水道局福市着水井）	
	池水	境港市小篠津町 D	11月
海水	表層水	米子市葭津地先 H	10月
		米子市大篠津町地先 I	11月

(ウ) ストロンチウム分析

・対象核種：Sr-90

表 I - 1 - 5 測定項目（核種分析）

区分	試料	採取地点	採取月
陸土	陸土	境港市馬場崎町 G	7月
		米子市河崎 B	
農産物	白ネギ	境港市中海干拓地 K	12月
海産物	ワカメ	境港市近海	4月
	イワガキ		7月

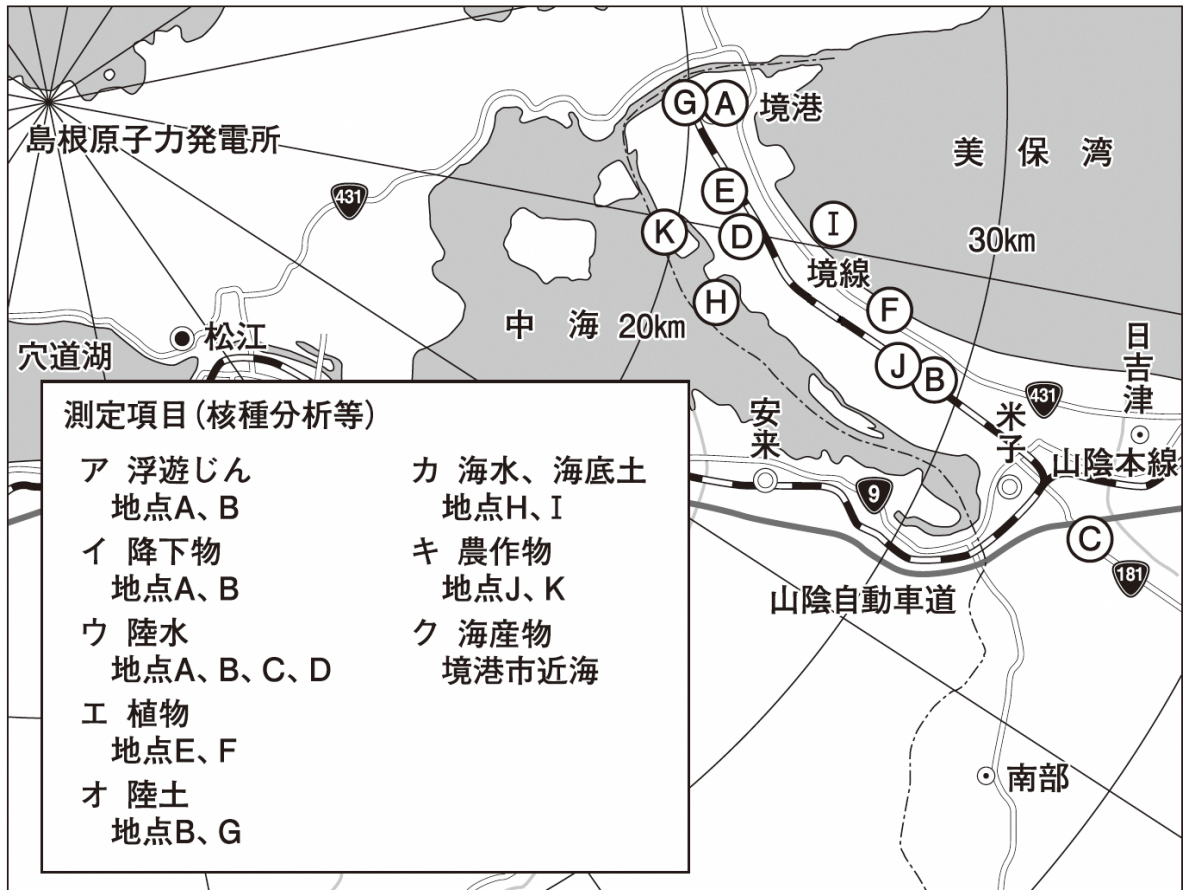


図 I - 1 - 2 調査地点図 (核種分析等)

エ 測定法及び測定機器

表 I-1-6 測定法及び測定機器

項目	区分	計測試料	分析法	測定器等
空間放射線	線量率	—	放射能測定法シリーズ「連続モニタによる環境γ線測定法」	NaI(Tl)シンチレーション検出器 (固定型) 日立製作所製 MSR-R54-21545R1 (可搬型) 富士電機製 NAH37401-B-BY2YY-S 日立製作所製 MAR-1561BR3
	積算線量	—	放射能測定法シリーズ「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線測定法」	蛍光ガラス線量計 (RPLD) 千代田テクノル製 ガラス線量計素子
環境試料 (全α及び全β放射能)	浮遊じん	捕集フィルター	放射線測定法シリーズ「全β放射能測定法」、JISZ4316「放射性ダストモニタ」 (3時間集じんし、3時間測定)	ZnS(Ag) + プラスチックシンチレーション検出器 日立製作所製 DSM-RC52-20089-1
環境試料 (γ線核種分析)	浮遊じん	捕集フィルター	放射能測定法シリーズ「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」	ゲルマニウム半導体検出器 セイコー・イージャーアンドジー製 GEM30-70
	降下物	濃縮物		
	陸水			
	陸土	風乾物		
	海底土			
	海水	吸着物		
	植物	灰化物 (※)		
	農産物			
海産物				
環境試料 (トリチウム)	陸水	蒸留物	放射能測定法シリーズ「トリチウム分析法」	液体シンチレーションカウンタ 日立製作所製 LSC-LB7
海水				
環境試料 (ストロンチウム)	陸土	化学処理後の沈殿物	放射能測定法シリーズ「放射性ストロンチウム分析法」	低バックグラウンドベータ線測定装置 日立製作所製 LBC-4501
	海水			
	農産物			
	海産物			

※植物、農産物、海産物 (ワカメ) については、生試料で I-131 を測定後、灰化处理し、再度測定

(4) 測定結果の評価

空間放射線等の測定結果については、「平常の変動幅」と比較し、これを超過した項目については、気象要因等の自然条件の変化、原子力施設の稼働状況等を調査して、原因について検討する。

また、データの蓄積量が少ないものについては、本調査結果に加え、全国の調査結果等を参考とする。

2 令和3年度測定結果

(1) 測定結果概要

令和3年度の島根原子力発電所に係る平常時モニタリング結果については、概ね過年度の測定結果と同レベルであり、原子力施設からの影響は認められなかった。

ア 空間放射線量率

(ア) 固定型モニタリングポスト

固定型モニタリングポスト2地点ともに平常の変動幅の範囲内であった。

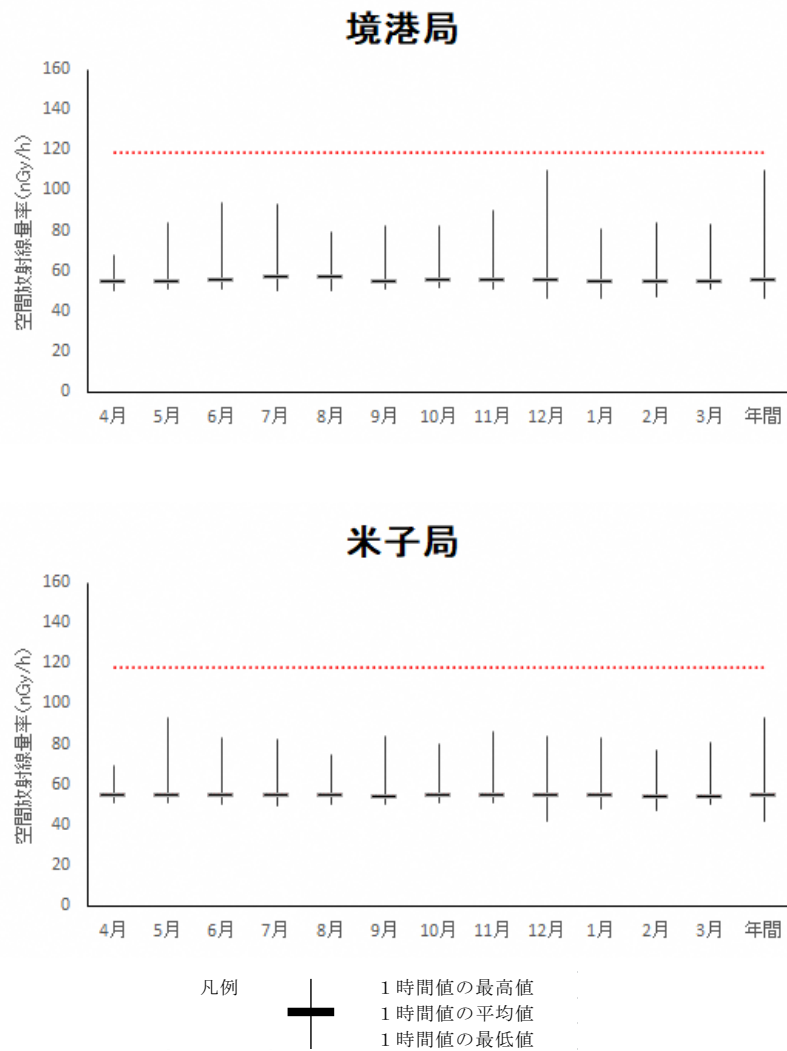


図 I - 2 - 1 a 空間放射線量率測定結果 (固定型モニタリングポスト)

(参考) 緊急時の可搬型モニタリングポスト7地点の測定結果は、全て平常の変動幅の範囲内であった。

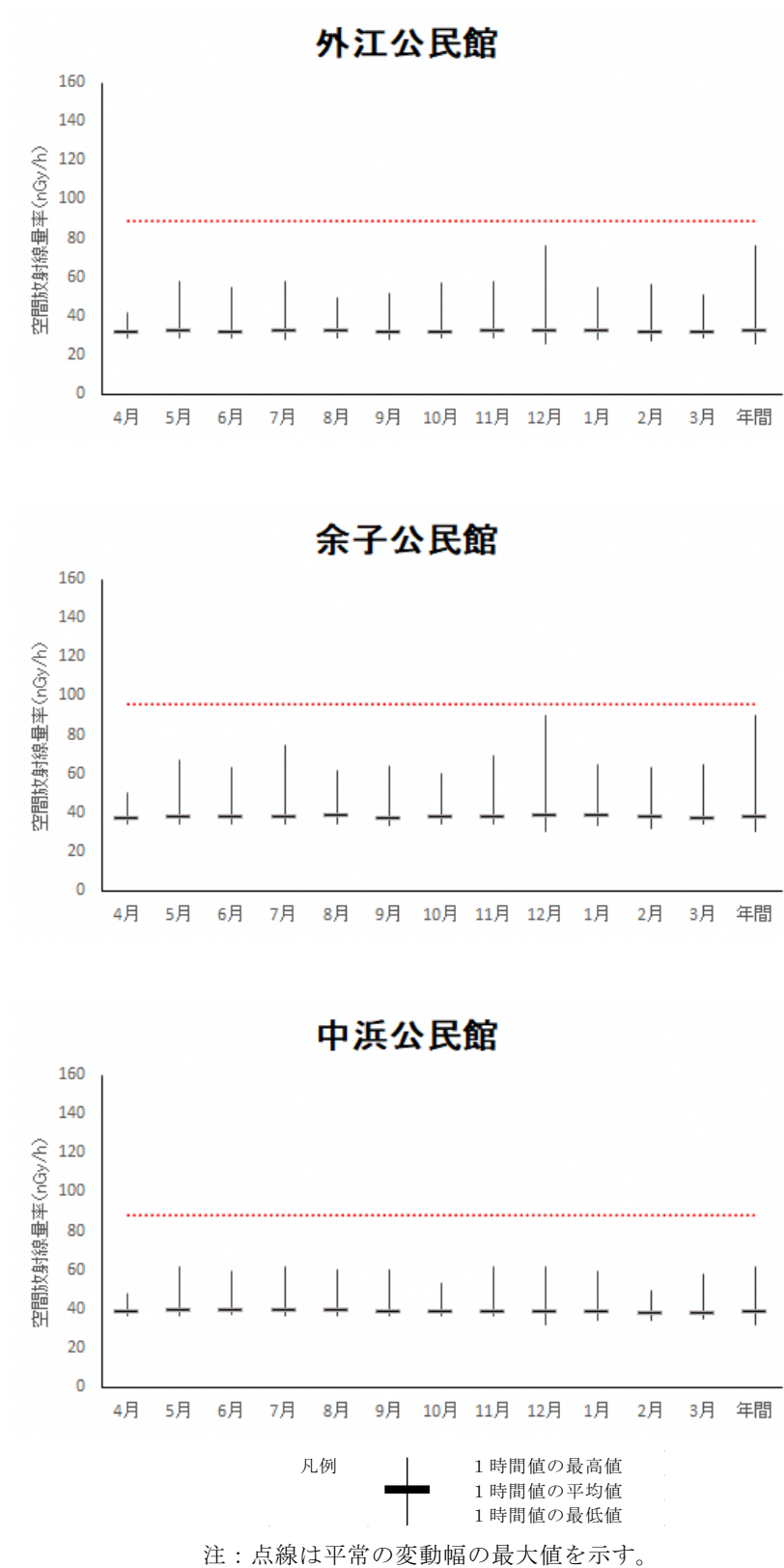
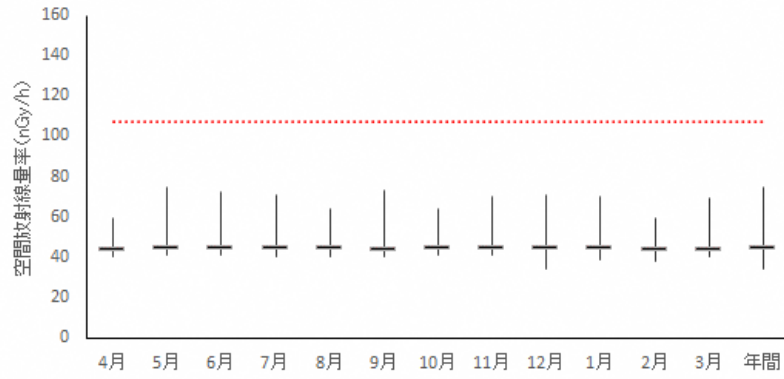
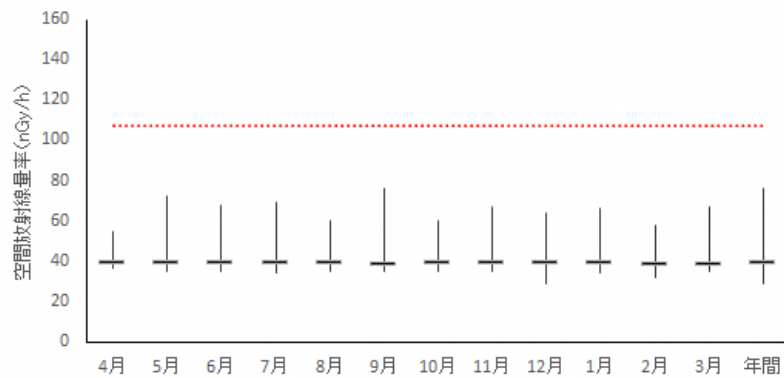


図 I - 2 - 1 b 空間放射線量率測定結果 (可搬型モニタリングポスト)

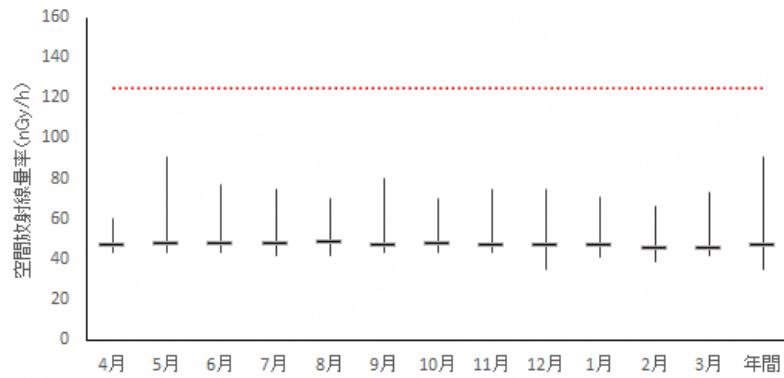
大篠津公民館



和田公民館



夜見公民館



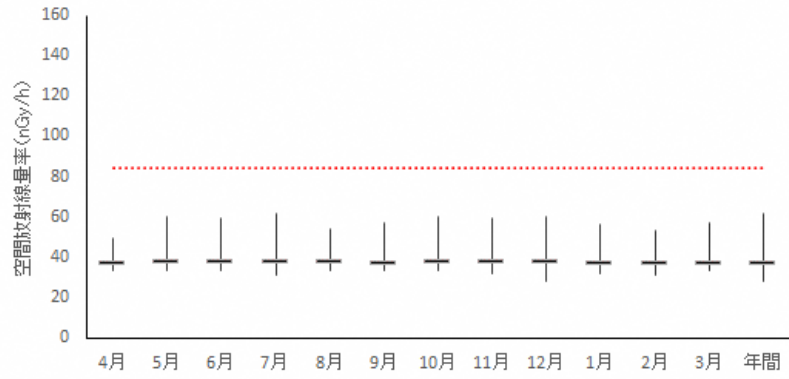
凡例

	1時間値の最高値
—	1時間値の平均値
	1時間値の最低値

注：点線は平常の変動幅の最大値を示す。

図 I - 2 - 1 c 空間放射線量率測定結果 (可搬型モニタリングポスト)

彦名公民館



注：点線は平常の変動幅の最大値を示す。

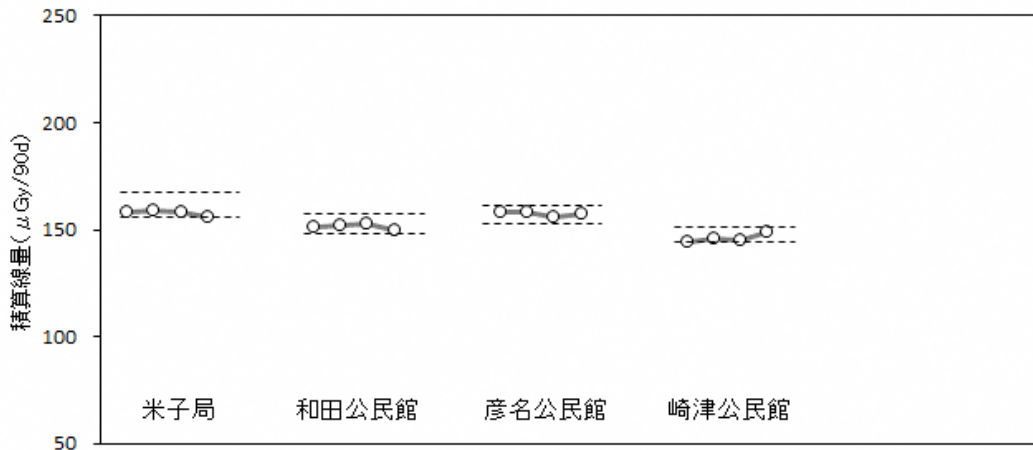
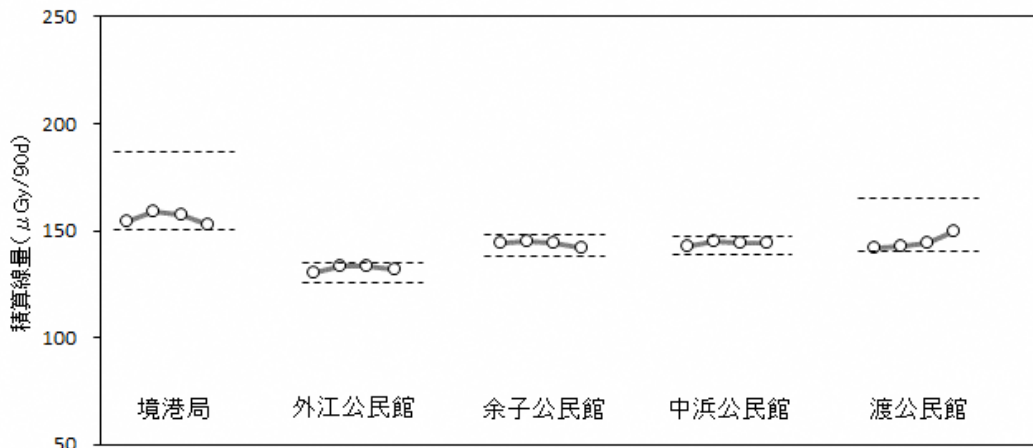
凡例

 1時間値の最高値
 1時間値の平均値
 1時間値の最低値

図 I - 2 - 1 d 空間放射線量率測定結果 (可搬型モニタリングポスト)

(イ) 積算線量

9地点全ての測定地点において、平常の変動幅の範囲内であった。



注：○は第1～4四半期の測定結果、点線は平常の変動幅を示す。

図 I - 2 - 2 積算線量の測定結果

イ 環境試料中の全 α 及び全 β 放射能

境港局において、令和3年7月の全 β /全 α 放射能比が平常の変動幅を超過した。このことから、下記のとおり原因を調査した結果、原子力施設による影響ではなく、自然放射線の変動によるものと考えられた（Ⅲ 検証1参照）。

○原子力施設の測定等の異常

島根原子力発電所で測定している排気筒モニタ及びモニタリングポストの測定値には異常な変動は認められなかった。

○気象、自然放射性物質等の影響

当該集じん中の気象状況は、風向が変動（東→南南東）するとともに風速が増加（0.8m/s→2.0m/s）したことから、地表付近に滞留していたラドン、トロン等の自然放射性核種が拡散して、大気浮遊じん中の全 α 、全 β 放射能が徐々に低下したのと考えられた。

○人工放射性核種等の影響

令和3年度上期の大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能には強い相関が認められることから、大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能は自然放射線由来であると考えられた。また、ダストサンプラで採取したろ紙をゲルマニウム半導体検出器で核種分析した結果、人工放射性核種は検出されなかった。

○測定器等の異常

ダストモニタについては、令和3年6月に定期点検で異常等は無く、当該事象発生後に機器の動作確認をしたが、異常がないことから、測定器等の異常ではないと考えられた。

表 I - 2 - 1 大気浮遊じんの全 α 放射能、全 β 放射能及び全 β /全 α 放射能比の概要

項目	測定地点	最高値	最低値	平常の変動幅	単位
全 α 放射能	境港局	1,351	8	7 ~ 2,101	mBq/m ³
	米子局	1,401	11	6 ~ 2,266	
全 β 放射能	境港局	3,858	21	21 ~ 5,584	
	米子局	3,910	37	17 ~ 5,920	
全 β /全 α 放射能比	境港局	<u>4.2</u>	2.6	2.3 ~ 3.7	—
	米子局	3.6	2.6	1.5 ~ 3.6	

注1：下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

注2：3時間集じんし、3時間測定。

注3：平常の変動幅は、H28～R02年度の5年間の最小値から最大値までの範囲。

ウ γ 線放出核種分析（ γ 線スペクトロメトリー）

大気浮遊じん、降下物、植物、海水及び農産物からCs-137が検出されたが、海水、農産物から検出されたCs-137は、平常の変動幅の範囲内であった。

（ア）大気浮遊じん

令和3年12月に採取した米子局の大気浮遊じんから、測定を開始してから初めてCs-137(0.010mBq/m³)が検出されたことから、下記のとおり要因調査を行ったところ、島根原子力発電所における測定値の異常、前処理作業及び分析機器による測定方法の問題、分析機器の異常は認められなかったことから、島根原子力発電所の影響ではな

いと考えられた。また、測定試料、核種分析結果、気象状況及び周辺環境の変化を確認した結果、ダストモニタろ紙に目視で識別可能な異物である砂粒（以下「砂粒」という。）がないことは確認できたが、目視で識別できない異物である砂埃（以下「砂埃」という。）混入の可能性は確認できなかった（Ⅲ_検証2参照）。

○原子力施設の測定等の異常

島根原子力発電所で測定している排気筒モニタ及びモニタリングポストの測定値には異常な変動は認められなかった。

○分析機器における異常

米子局のダストモニタから回収した長尺ろ紙の前処理作業は、マニュアルに基づき適切に行われており、試料操作時の他試料によるコンタミネーションがなかったことや、測定試料に目視で識別可能な異物である砂粒の混入がないことを確認した。

なお、試料灰化中に停電が発生したが、試料の灰化は正常に実施されたことを確認した。

○その他要因

気象状況について確認した結果、令和3年12月に米子局で一時的な強い風（12.4m/s）を観測しているが、過去それ以上の最大風速を観測した月の大気中浮遊じんからCs-137は検出されていない。また、令和3年12月に米子局周辺の立木伐採を行っており、ダスト吸入口側の風通しが良くなったことで、舞い上がった砂埃が混入したことが考えられるが、測定試料重量やK-40濃度の変化について検討した結果、砂埃混入の可能性を確認できなかった。

(イ) 降下物

令和3年12月に境港局で採取した降下物から、測定を開始してから初めてCs-137（0.15 MBq/km²）が検出された。このことから、要因調査を行ったところ、島根原子力発電所において測定している排気筒モニタ及びモニタリングポストの値の異常、採取した降下物の前処理作業及び分析機器による測定方法の問題、分析機器の異常は認められなかったことから、島根原子力発電所の影響ではないと考えられた。また、その他要因として、前処理後の試料状況を確認した結果、採取試料への土壌が混入したことによる影響が考えられた。

(ウ) 植物

境港市から採取した松葉から検出されたCs-137（0.79 Bq/kg 生）が、平常の変動幅（0.18～0.58 Bq/kg 生）を超過した。このことから、原因を調査した結果、島根原子力発電所において測定している排気筒モニタ及びモニタリングポストの値の異常、採取した松葉の前処理作業や分析機器による測定方法の問題、分析機器の異常が認められなかったことから、島根原子力発電所の影響ではないと考えられ、過去の大気圏内核実験等の影響によるものと考えられた。

なお、本測定結果については、本県のデータの蓄積が少ないことから、参考として全国の調査結果と比較した結果、同程度の値（0.6 Bq/kg 生）が観測されている。

※「日本の環境放射能と放射線（原子力規制庁）」による検索結果。

福島第一原子力発電所の事故による影響を考慮して、東北地方の調査結果と平成23～24年度分を除く、平成21～22年度及び平成25年度～令和2年度の10年間の調査結果。

表 I - 2 - 2 γ 線放出核種の分析結果の概要

区分	試料数	Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137	単位
浮遊じん	24	ND	ND	ND	ND	/	ND~ <u>0.010</u>	mBq/m ³
降下物	24	ND	ND	ND	ND	/	ND~ <u>0.15</u>	MBq/km ²
陸水	7	ND	ND	ND	ND	/	ND	mBq/L
植物	2	ND	ND	ND	ND	ND	0.12~ <u>0.79</u>	Bq/kg 生
陸土	4	ND	ND	ND	ND	/	ND	Bq/kg 乾土
海水	4	ND	ND	ND	ND	/	ND~ 1.6	mBq/L
海底土	2	ND	ND	ND	ND	/	ND	Bq/kg 乾土
農産物	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND~ 0.16	Bq/kg 生
海産物	2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	Bq/kg 生

注1：下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

エ トリチウム分析 (H-3)

陸水及び海水から H-3 は検出されなかった。

表 I - 2 - 3 トリチウム (H-3) の分析結果の概要

区分	試料	試料数	分析結果	平常の変動幅	単位
陸水	水道水	3	ND	ND~0.47	Bq/L
	池水	1	ND	ND~0.69	
海水	海水	2	ND	ND~0.48	

オ 放射性ストロンチウム分析 (Sr-90)

陸土（表層）、海産物（ワカメ）及び農産物（白ネギ）から、平常の変動幅を超過する Sr-90 が検出された。このことから、要因調査を行ったところ、島根原子力発電所において測定している排気筒モニタ及びモニタリングポストの値の異常、採取試料の前処理作業、分析機器による測定方法の問題、分析機器の異常は認められなかったことから、いずれも過去の大気圏内核実験等の影響によるものと考えられる。

なお、陸土については平成 30 年度から、農産物（白ネギ）及び海産物（ワカメ）については令和元年度から測定を開始しており、本県のデータの蓄積が少ないことから、参考として、本測定結果について全国の調査結果と比較した結果は次のとおりであった。

【陸土（表層）】

本測定結果 (0.43Bq/kg 乾土) については、全国の調査結果 (東北地方除く。) (ND~6Bq/kg) の範囲内であった。

【農産物（白ネギ）】

本測定結果（0.022 Bq/kg 生）について、全国の調査結果（0.013～0.25Bq/kg 生）の範囲内であった。

【海産物（ワカメ）】

本測定結果（0.12 Bq/kg 生）について、全国の調査結果（東北地方除く。わかめ・あらめ・ひじきなど。）（ND～0.15 Bq/kg 生）の範囲内であった。

※ 全国の調査結果：「日本の環境放射能と放射線（原子力規制庁）」による検索結果。平成 21～22 年度と平成 25 年度～令和 2 年度の 10 年間分（平成 23～24 年度は福島第一原子力発電所の事故による影響のため除外した）。

表 I - 2 - 4 ストロンチウム（Sr-90）の分析結果の概要

区分	試料	試料数	分析結果	平常の変動幅	単位
陸土	陸土（表層）	2	ND～ <u>0.43</u>	0.30～0.36	Bq/kg 乾土
農産物	白ネギ	1	<u>0.022</u>	0.013	Bq/kg 生
海産物	ワカメ	1	<u>0.12</u>	ND～0.058	
	イワガキ	1	ND	ND～0.045	

注：下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

(2) 測定項目別の結果

ア 空間放射線

(ア) 空間放射線量率

表 I-2-5 固定型モニタリングポストの測定結果 (1時間値)

(単位: nGy/h)

地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
境港局	最高値	68	84	94	93	79	82	82	90	110	81	84	83	110	119
	最低値	50	51	51	50	50	51	52	51	46	46	47	51	46	34
	平均値	54	54	55	56	56	54	55	55	55	54	54	54	55	—
米子局	最高値	69	93	83	82	75	84	80	86	84	83	77	81	93	118
	最低値	51	51	50	49	50	50	51	51	42	48	47	50	42	34
	平均値	54	54	54	54	54	53	54	54	54	54	53	53	54	—

注:「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(H28~R02)の最小から最大値までの範囲。

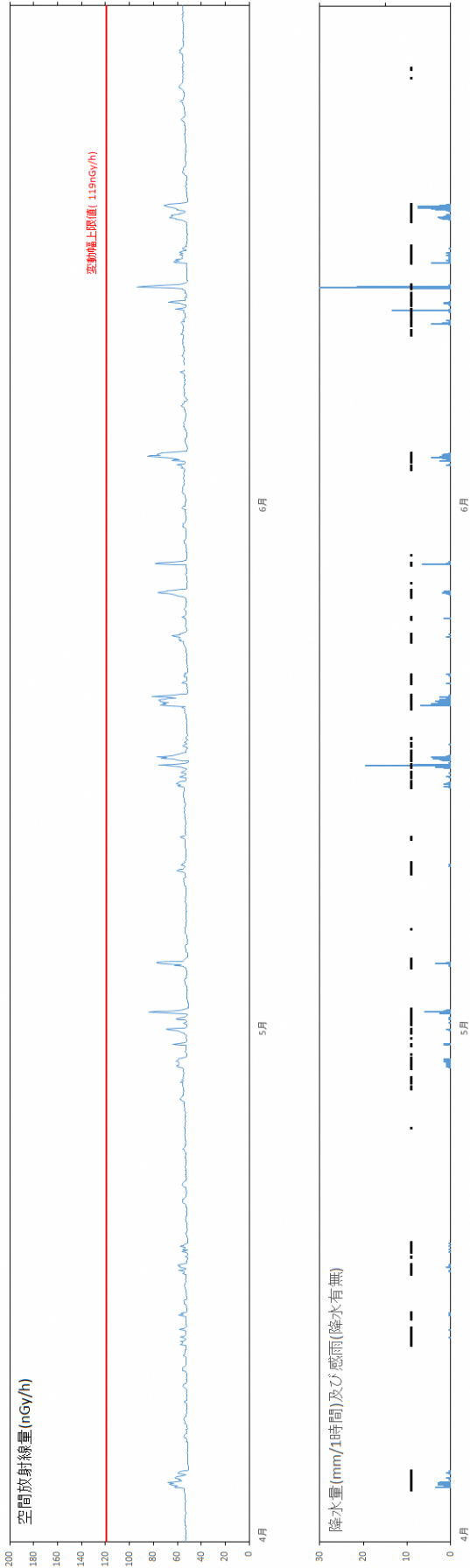
表 I-2-6 可搬型モニタリングポストの測定結果 (1時間値)

(単位: nGy/h)

地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
外江公民館	最高値	42	58	55	58	49	52	57	58	76	55	56	51	76	89
	最低値	29	29	29	28	29	28	29	29	26	28	27	29	26	19
	平均値	31	32	31	32	32	31	31	32	32	32	31	31	32	—
余子公民館	最高値	50	67	63	75	62	64	60	69	90	65	63	65	90	96
	最低値	34	34	34	34	34	33	34	34	30	33	32	34	30	21
	平均値	36	37	37	37	38	36	37	37	38	38	37	36	37	—
中浜公民館	最高値	48	62	59	62	60	60	53	62	62	59	49	58	62	88
	最低値	36	36	37	36	36	36	36	36	32	34	34	35	32	29
	平均値	38	39	39	39	39	38	38	38	38	38	37	37	38	—
大篠津公民館	最高値	59	75	72	71	64	73	64	70	71	70	59	69	75	107
	最低値	40	41	41	40	40	40	41	41	34	39	38	40	34	29
	平均値	43	44	44	44	44	43	44	44	44	44	43	43	44	—
和田公民館	最高値	55	72	68	69	60	76	60	67	64	66	58	67	76	107
	最低値	36	35	35	34	35	35	35	35	29	34	32	35	29	24
	平均値	39	39	39	39	39	38	39	39	39	39	38	38	39	—
夜見公民館	最高値	60	91	77	75	70	80	70	75	75	71	66	73	91	125
	最低値	43	43	43	42	42	43	43	43	35	41	39	42	35	28
	平均値	46	47	47	47	48	46	47	46	46	46	45	45	46	—
彦名公民館	最高値	49	60	59	62	54	57	60	59	60	56	53	57	62	84
	最低値	33	33	33	31	33	33	33	32	28	32	31	33	28	25
	平均値	36	37	37	37	37	36	37	37	37	36	36	36	36	—

注:「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(H28~R02)の最小から最大値までの範囲。

境港局



米子局

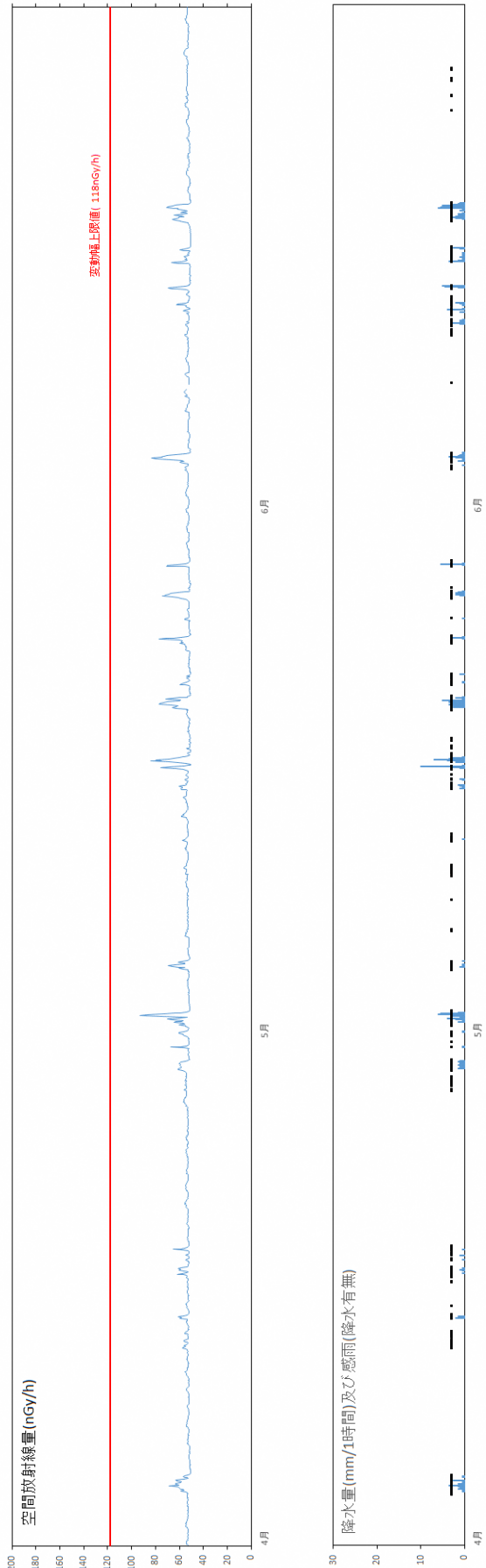
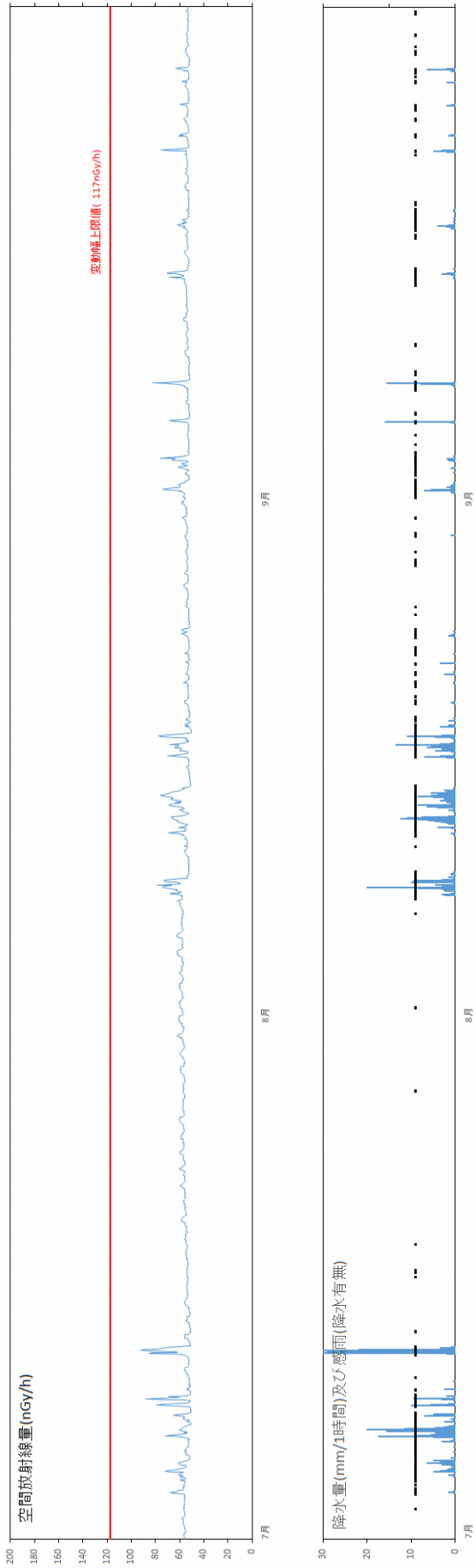


図 I - 2 - 3a 空間放射線量率と降水量の関係(令和3年度第1四半期、1時間値)

境港局



米子局

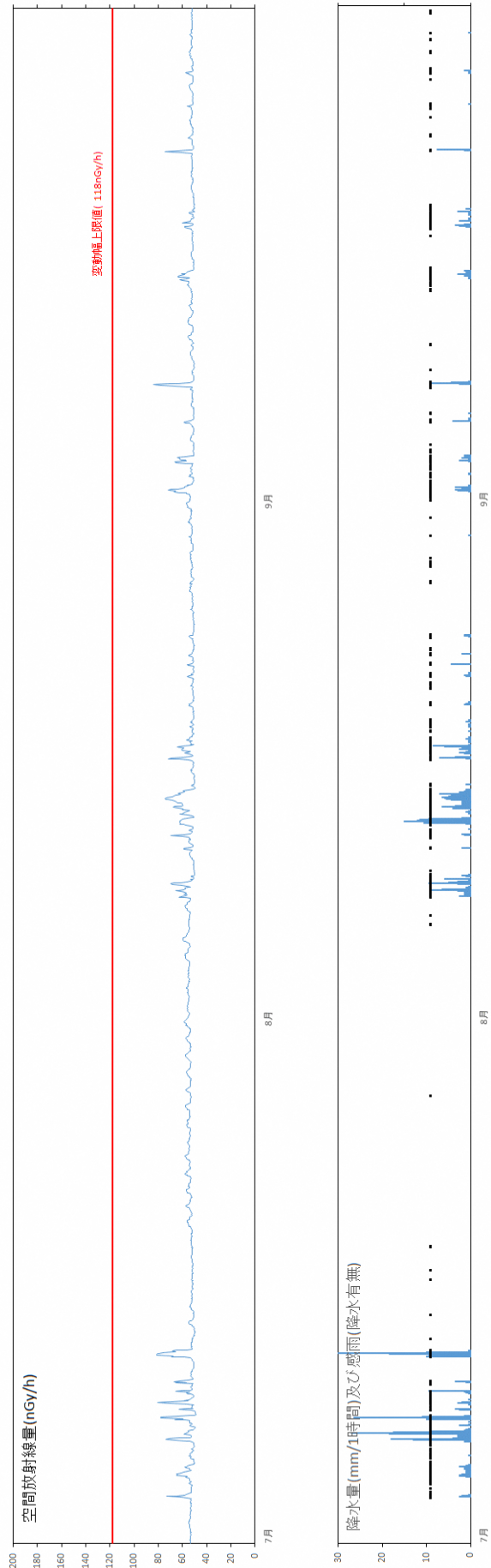
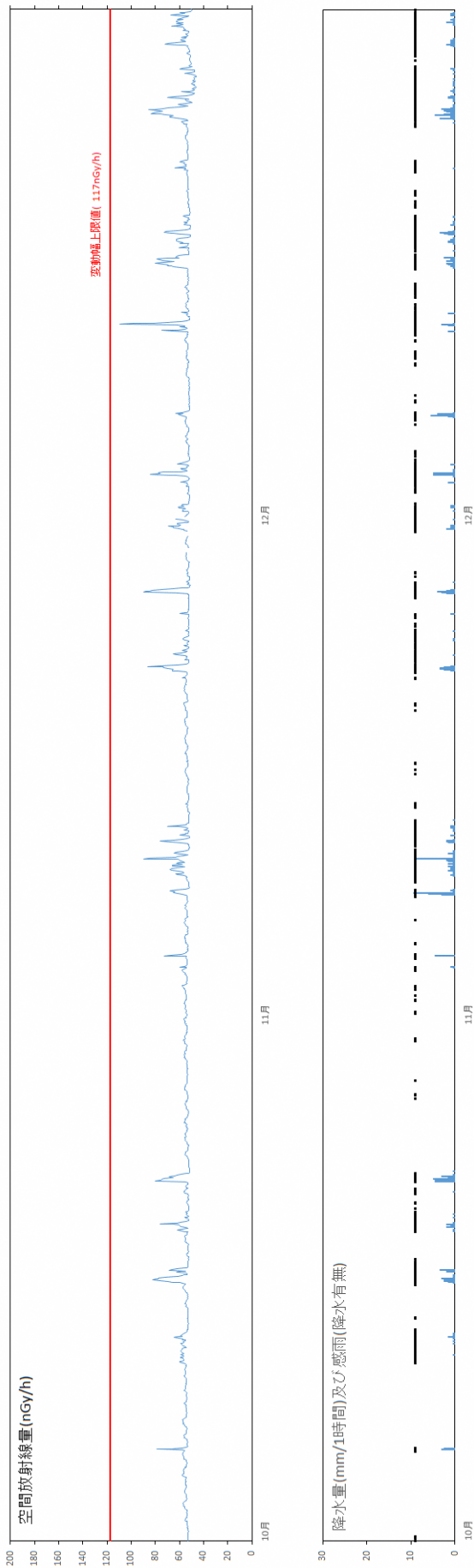


図 I-2-3b 空間放射線量率と降水量の関係 (令和3年度第2四半期、1時間値)

境港局



米子局

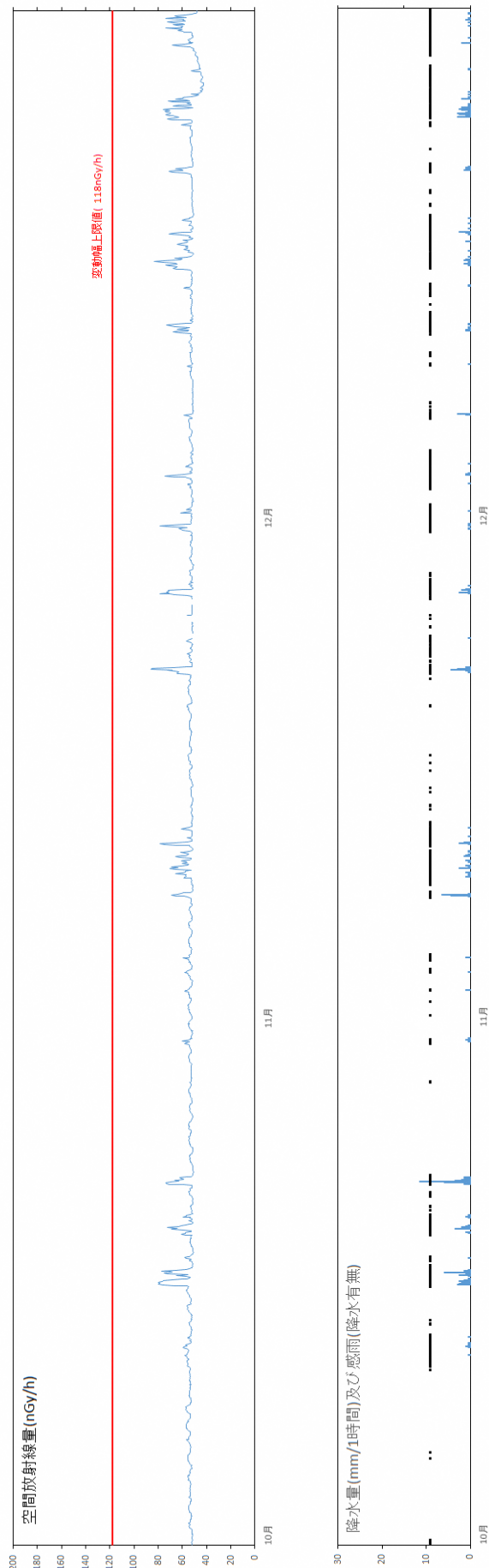
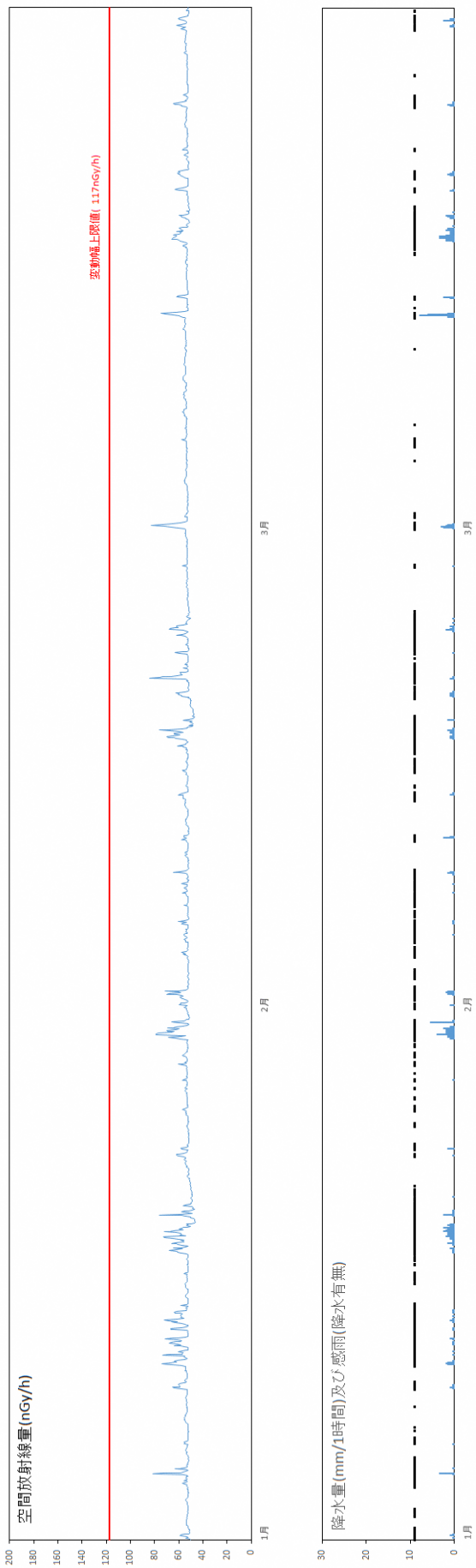


図 I-2-3c 空間放射線量率と降水量の関係 (令和3年度3四第半期、1時間値)

境港局



米子局

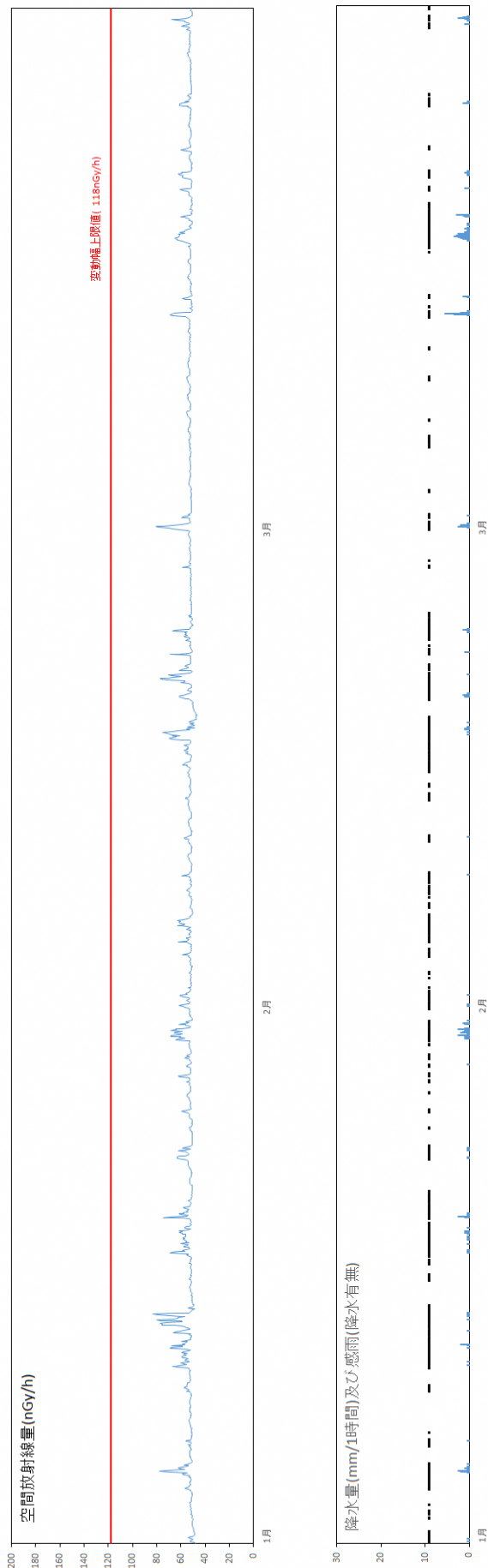


図 I - 2 - 3d 空間放射線量率と降水量の関係(令和3年度4四第半期、1時間値)

(イ)積算線量

表 I - 2 - 7 積算線量の測定結果

(単位: 上段 $\mu\text{Gy}/90\text{d}$ 、下段 $\mu\text{Gy}/\text{h}$)

測定地点	第1四半期 (4～6月)	第2四半期 (7～9月)	第3四半期 (10～12月)	第4四半期 (1～3月)	平常の変動幅 (暫定値)	年間線量 (mGy/365d)
境港局	154 (0.071)	159 (0.074)	157 (0.073)	153 (0.071)	150～188 (0.069～0.087)	0.63
米子局	158 (0.073)	159 (0.074)	158 (0.073)	156 (0.072)	155～168 (0.072～0.078)	0.64
外江公民館	130 (0.060)	133 (0.062)	133 (0.062)	132 (0.061)	127～135 (0.059～0.063)	0.54
余子公民館	144 (0.067)	145 (0.067)	144 (0.067)	142 (0.066)	139～148 (0.064～0.069)	0.58
中浜公民館	143 (0.066)	145 (0.067)	144 (0.067)	144 (0.067)	140～147 (0.065～0.068)	0.58
和田公民館	151 (0.070)	152 (0.070)	153 (0.071)	150 (0.069)	148～157 (0.069～0.073)	0.61
彦名公民館	158 (0.073)	158 (0.073)	156 (0.072)	157 (0.073)	153～161 (0.071～0.075)	0.64
渡公民館	142 (0.066)	143 (0.066)	144 (0.067)	150 (0.069)	141～165 (0.065～0.076)	0.59
崎津公民館	144 (0.067)	146 (0.068)	145 (0.067)	149 (0.069)	143～151 (0.067～0.070)	0.59

注1: 「平常の変動幅」は、H28～R02年度の最小値から最大値までの範囲。

注2: 下段 () 内の数値は、当該期間における1時間当たりの線量率を算出したもの。

イ 環境試料中の全 α 及び全 β 放射能

表 I-2-8 大気浮遊じんの測定結果

(単位: mBq/m³)

項目	地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の変動幅
全 α 放射能	境港局	最高値	1,114	767	958	1,099	1,113	1,013	1,351	1,130	824	839	884	1,133	1,351	2,101
		最低値	12	12	33	8	10	23	28	30	17	28	39	21	8	7
		平均値	188	167	201	208	175	173	287	305	190	195	195	239	210	
	米子局	最高値	701	-	845	1,354	1,228	1,170	1,348	1,401	735	1,060	927	1,319	1,401	2,266
		最低値	28	-	32	13	11	25	29	33	18	26	44	14	11	6
		平均値	156	-	234	256	213	217	317	398	169	242	251	282	249	
全 β 放射能	境港局	最高値	3,165	2,302	2,762	3,328	3,207	3,066	3,858	3,106	2,460	2,442	2,347	2,933	3,858	5,584
		最低値	39	36	99	21	31	68	81	94	55	78	108	56	21	21
		平均値	569	520	604	636	531	528	856	898	576	569	545	665	625	
	米子局	最高値	2,091	-	2,592	3,862	3,568	3,338	3,875	3,910	2,352	2,887	2,670	3,433	3,910	5,920
		最低値	93	-	101	39	37	75	86	108	55	79	134	43	37	17
		平均値	481	-	677	755	627	650	943	1,146	512	703	722	788	728	
全 β 全 α	境港局	最高値	3.4	3.6	3.4	4.2	3.6	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.1	3.2	4.2	3.7
		最低値	2.7	2.9	2.7	2.7	2.7	2.7	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.3
		平均値	3.1	3.1	3.0	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	2.8	2.8	3.0	
	米子局	最高値	3.5	-	3.4	3.5	3.6	3.4	3.6	3.3	3.6	3.4	3.3	3.3	3.6	3.6
		最低値	3.0	-	2.7	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	2.8	2.6	2.6	2.6	2.6	1.5
		平均値	3.2	-	2.9	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	3.1	3.0	2.9	2.8	3.0	

注1: 下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

注2: 3時間集じんし、3時間測定。

注3: 「平常の変動幅」は、前年度までの5年間(H28~R02年度)の最小から最大値までの範囲。

注4: 「-」は欠測を示す。(米子局4/7~6/8まで装置故障)

ウ 環境試料中の放射性核種分析（γ線スペクトロメトリー）

（ア）浮遊じん

表 I-2-9 浮遊じんの測定結果

（単位:mBq/m³）

採取地点	採取期間	対象核種						自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
境港局	4月1日～4月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.0	0.46	ND
	5月1日～5月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.5	0.38	
	6月1日～6月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	0.37	
	7月1日～7月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	0.43	
	8月1日～8月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.4	0.36	
	9月1日～9月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.5	0.37	
	10月1日～10月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.8	0.37	
	11月1日～11月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.2	0.45	
	12月1日～12月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.1	0.35	
	1月1日～1月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.5	0.37	
	2月1日～2月28日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.0	0.44	
	3月1日～3月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.2	0.42	
米子局	4月1日～4月7日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.5	ND	ND
	4月7日～6月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6月8日～6月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2	0.37	
	7月1日～7月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	0.34	
	8月1日～8月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.7	0.47	
	9月1日～9月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.6	0.38	
	10月1日～10月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.3	0.45	
	11月1日～11月30日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.7	0.43	
	12月1日～12月31日	ND	ND	ND	ND	ND	<u>0.010</u>	3.8	0.46	
	1月1日～1月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.4	0.36	
	2月1日～2月28日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.0	0.46	
	3月1日～3月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.1	0.43	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:H30年度から1ヶ月間の連続採取(H24～29年度は24時間/月採取)

注3:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25～R02年度)とする。

注4:「-」は欠測を示す。(米子局4/7 10:00～6/8 17:00まで装置故障)

(イ) 降下物

表 I-2-10 降下物の測定結果

(単位:MBq/km²)

採取地点	採取期間	対象核種						自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
境港局	4月1日～5月6日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	200	2.8	ND
	5月6日～6月1日	ND	ND	ND	ND	ND	<u>0.15</u>	150	3.3	
	6月1日～7月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	180	ND	
	7月1日～8月2日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	240	ND	
	8月2日～9月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	230	1.2	
	9月1日～10月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	160	ND	
	10月1日～11月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	190	ND	
	11月1日～12月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	330	2.0	
	12月1日～1月5日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	930	4.1	
	1月5日～2月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	470	1.2	
	2月1日～3月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	420	1.4	
	3月1日～4月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	210	1.8	
米子局	4月1日～5月6日	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	130	14	ND～ 0.16 (注3)
	5月6日～6月1日	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	150	3.3	
	6月1日～7月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	1.3	
	7月1日～8月2日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	210	1.6	
	8月2日～9月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	160	1.3	
	9月1日～10月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	87	1.5	
	10月1日～11月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	150	ND	
	11月1日～12月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	130	6.6	
	12月1日～1月5日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	600	3.2	
	1月5日～2月1日	ND	ND	ND	ND	ND	0.067	310	1.4	
	2月1日～3月1日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	200	1.5	
	3月1日～4月1日	ND	ND	ND	ND	ND	0.083	180	3.5	

注1:NDは検出下限値未滿を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25～R02年度)とする。なお、H24年度の値は、福島第一原子力発電所の事故の影響を考慮して除外した。

注3:米子局はR01年度に採取高を1mから3mに変更したため、「平常の変動幅」は、H29～R01年度に採取高3mで行った結果の最小～最大値を記載した。

注4:下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

(ウ) 陸水

表 I - 2 - 11 陸水の測定結果

(単位:mBq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)	
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7		K-40
陸水	水道水	蛇口水	境港市上道町	R03.05.17	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	48	ND
				R03.11.08	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	54	
		米子市河崎	R03.05.17	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	51	ND	
			R03.11.08	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	50		
	原水	米子市福市(米子市水道局福市着水井)	R03.05.17	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	43	ND	
			R03.11.08	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	52		
池水	表層水	境港市小篠津町	R03.11.08	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	14	690	ND	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25～R02年度)とする。

(エ) 植物

表 I - 2 - 12 植物の測定結果

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)	
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7		K-40
植物	松葉	二年葉	境港市幸神町	R03.10.11	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.79	25	41	0.18～0.58
			米子市夜見町	R03.10.11	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	26	55	0.050～0.16

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25～R02年度)とする。

(オ) 陸土

表 I - 2 - 13 陸土の測定結果

(単位:Bq/kg乾土)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種						自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)	
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7		K-40
陸土	陸土	表層 (0～5cm)	境港市馬場崎町	R03.07.02	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	890	ND
			米子市河崎	R03.07.02	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	980	ND
		下層 (5～20cm)	境港市馬場崎町	R03.07.02	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	890	ND
			米子市河崎	R03.07.02	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	920	ND

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25～R02年度)とする。

(カ) 海水

表 I-2-14 海水の測定結果

(単位:mBq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種							自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
海水	海水	表層水	米子市葭津地先 (中海)	R03.04.20	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	150	ND
				R03.10.11	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	130	
			米子市大篠津町 地先(美保湾)	R03.05.18	ND	ND	ND	ND	/	ND	1.6	ND	190	ND~2.2
				R03.11.29	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	220	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25~R02年度)とする。

(キ) 海底土

表 I-2-15 海底土の測定結果

(単位:Bq/kg乾土)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種							自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
海底土	海底土	表層 底質	米子市葭津地先 (中海)	R03.10.11	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	ND	470	ND~8.0
			米子市大篠津町 地先(美保湾)	R03.11.29	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	6.2	580	ND~0.90

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H25~R02年度)とする。

(ク) 農産物

表 I-2-16 農産物の測定結果

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種							自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
農産物	米	精米	米子市夜見町	R03.10.22	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.16	ND	20	0.19~0.28
	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	R03.12.01	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.24	54	ND
				R03.12.07	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	45	88	ND
	大根	葉	境港市中海干拓地	R03.12.07	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	54	ND
根 可食部		R03.12.07		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	54	ND	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(白ネギ・大根:H25~R02年度、米:H26~R02年度)とする。

注3:米はR01年度に採取地点を変更した。

(ケ) 海産物

表 I-2-17 海産物の測定結果

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種							自然放射性核種		平常の変動幅 (暫定値)
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Cs-137
海産物	ワカメ		境港市近海	R03.04.12	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.7	220	ND
	イワガキ	身		R03.07.27	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	6.1	83	ND
	セイゴ	身		R04.01.25	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	130	0.10~0.16	
	ナマコ	身		R04.02.28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16	ND	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(ワカメ・イワガキ・セイゴ:H26~R02年度、ナマコ:H25~R02年度)とする。

エ 環境中の放射性核種分析 (トリチウム)

表 I-2-18 トリチウムの測定結果

(単位:Bq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	測定値	平常の変動幅 (暫定値)
陸水	水道水	蛇口水	境港市上道町	R03.05.17	ND	ND ~ 0.47
			米子市河崎	R03.05.17	ND	ND ~ 0.37
		原水	米子市福市(米子市水道局福市着水井)	R03.05.17	ND	ND
	池水	表層水	境港市小篠津町	R03.11.08	ND	ND ~ 0.69
海水	海水	表層水	米子市葭津地先(中海)	R03.10.11	ND	ND ~ 0.48
			米子市大篠津町地先(美保湾)	R03.11.29	ND	ND ~ 0.39

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H27~R02年度)とする。

オ 環境中の放射性核種分析 (ストロンチウム)

表 I-2-19 ストロンチウム(Sr-90)の測定結果

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	測定値	平常の変動幅 (暫定値)	単位
陸土	陸土	表層 (0~5cm)	境港市馬場崎町	R03.07.02	<u>0.43</u>	0.30~0.36	Bq/kg乾土
			米子市河崎	R03.07.02	ND	0.25~0.47	
		下層 (5~20cm)	境港市馬場崎町	R03.07.02	0.34	0.31~0.34	
			米子市河崎	R03.07.02	0.33	0.23~0.41	
農産物	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	R03.12.01	<u>0.022</u>	0.013	Bq/kg生
海産物	ワカメ		境港市近海	R03.04.12	<u>0.12</u>	ND~0.058	
	イワガキ	身	境港市近海	R03.07.27	ND	ND~0.045	

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(陸土・イワガキ:H30~R02年度、白ネギ・ワカメ:R01~R02年度)とする。

注3:下線は平常の変動幅を超過した結果であることを示す。

3 令和4年度の平常の変動幅

島根原子力発電所周辺における平常時モニタリングの「平常の変動幅」については、これまでの人形峠環境技術センター周辺における設定の考え方に基づき、令和2年度より最小値から最大値までの範囲としていたが、原子力安全顧問からの助言、指導により、平常の変動幅の設定について検討した結果、「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」に基づき、下記のとおりとする。

なお、空間放射線量率及び環境試料中の放射性物質濃度の測定結果において、平常の変動幅を超過した場合には、施設寄与を弁別するためのフローチャート（IV参考資料10）に基づき、要因の調査を行う。

（平常の変動幅の設定）

○空間放射線量率、大気浮遊じん中（連続測定）の放射能

過去5年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。

○積算線量、環境試料中の放射性物質の濃度

過去10年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。

（1）空間放射線

ア 空間放射線量率（固定局）

（単位：nGy/h）

測定地点	平常の変動幅		測定開始時（H25）からの測定値	
	最小値から最大値	最大値の発生日時	最小値から最大値	最大値の発生日時
境港局	34 ～ 119	R02.06.25 13:00	34 ～ 119	R02.06.25 13:00
米子局	34 ～ 118	H29.12.08 21:00	34 ～ 146	H27.12.17 21:00

※ 境港局の「平常の変動幅」は、H30年度に実施した非常用発電機及びフェンス新設の影響を考慮して、H31年1月～R03年度までの最小値から最大値までの範囲とする。

※ 米子局の「平常の変動幅」は、前年度までの5年間（H29～R03年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

イ 空間放射線量率（可搬局）

（単位：nGy/h）

測定地点	平常の変動幅		測定開始時（H26）からの測定値	
	最小値から最大値	最大値の発生日時	最小値から最大値	最大値の発生日時
外江公民館	19 ～ 82	H29.12.08 21:00	19 ～ 104	H27.12.17 20:00
余子公民館	21 ～ 91	H30.02.04 21:00	21 ～ 103	H27.12.17 21:00
中浜公民館	29 ～ 82	H30.02.04 24:00	29 ～ 99	H27.12.17 21:00
大篠津公民館	29 ～ 96	H29.12.08 21:00	29 ～ 107	H29.01.23 07:00
和田公民館	24 ～ 100	H29.12.08 21:00	24 ～ 111	H27.12.17 21:00
夜見公民館	28 ～ 125	H29.12.08 21:00	28 ～ 135	H27.12.17 21:00
彦名公民館	25 ～ 81	H30.02.04 21:00	25 ～ 99	H27.12.17 21:00

※ 「平常の変動幅」は、前年度までの5年間（H29～R03年度）の最小値から最大値までの範囲とする。

ウ 積算線量

(単位：μGy/90d)

測定地点	平常の変動幅(暫定値)	※測定開始時(H28)からの測定値
	最小値から最大値	最大値の発生年月
境港局	150 ~ 188	H28. 7~9
米子局	155 ~ 168	H28. 4~6
外江公民館	127 ~ 135	H28. 4~6, H28. 7~9
余子公民館	139 ~ 148	H28. 4~6
中浜公民館	140 ~ 147	H28. 4~6, H28. 7~9
和田公民館	148 ~ 157	R02. 4~6
彦名公民館	153 ~ 161	H28. 4~6, H28. 7~9
渡公民館	141 ~ 165	H28. 7~9
崎津公民館	143 ~ 151	R02. 1~3

※ 「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H28~R03年度)とする。

(2) 環境試料中の全α及び全β放射能

測定地点	全α放射能 (mBq/m ³)		全β放射能 (mBq/m ³)	
	平常の変動幅	測定開始からの 最小~最大値	平常の変動幅	測定開始からの 最小~最大値
	最大値の 検出日時	最大値の 検出日時	最大値の 検出日時	最大値の 検出日時
境港局	7~2, 101	7~2, 124	21~5, 584	21~5, 584
	H30. 07. 20 08:00	H26. 04. 16 10:00	H30. 07. 20 08:00	H30. 07. 20 08:00
米子局	6~2, 266	6~2, 481	17~5. 920	17~5, 920
	H30. 08. 03 08:00	H26. 06. 02 10:00	H30. 08. 03 08:00	H30. 08. 03 08:00

※ 「平常の変動幅」は、前年度までの5年間(H29~R03年度)の最小から最大値までの範囲とする。

※ 各項目の測定はH26年度から開始した。

(3) 環境試料の核種分析

ア ガンマ線スペクトロメトリー

試料	部位	採取地点	平常の変動幅(暫定値)			
			Cs-137	単位	測定期間	最大値の 採取年月
大気 浮遊じん	浮遊 じん	境港市上道町	ND	mBq/m ³	H24~R03	—
		米子市河崎	ND~0.010			R03.12
降下物	降下物	境港市上道町	ND~0.15	MBq/km ²	H25~R03 H29~R03	R03.05
		米子市河崎	ND~0.16			H30.3
陸水	水道水	蛇口水	ND	mBq/L	H24~R03	—
		米子市河崎	ND			—
	原水	米子市福市	ND			—
	池水	表層水	境港市小篠津町	ND		—
植物	松葉	二年葉	境港市幸神町	Bq/kg 生	H24~R03	R03.10
		米子市夜見町	0.050~0.16			H29.08
陸土	表層	境港市馬場崎町	ND	Bq/kg 乾土	H24~R03	—
		米子市河崎	1.1			H24.7
	境港市馬場崎町	ND	—			
	米子市河崎	1.6	H24.7			

海水	表層水	米子市葭津地先(中海)	ND	mBq/L	H24~R03	—
		米子市大篠津町地先(美保湾)	ND~2.2			H25.12
海底土	表層	米子市葭津地先	ND~8.0	Bq/kg 乾土	H24~R03	H25.10
	底質	米子市大篠津町地先	ND~0.90			R02.11
農産物	米	精米	米子市夜見町	Bq/kg 生	H26~R03	H26.10
	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地		H25~R03	—
	大根	葉	境港市中海干拓地			ND
根		ND		—		
牛乳	—	米子市和田町	ND	Bq/L	H25~R01	—
海産物	ワカメ	—	境港市近海	Bq/kg 生	H26~R03	—
	イワガキ	身				ND
	セイゴ	身			0.10~0.16	H28.10
	ナマコ	身			ND	H25~R02

※ 「平常の変動幅」は、前年度までの10年間の最小から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(測定開始年度~R03年度(牛乳はR01年度))とする。

イ トリチウム

試料	部位	採取地点	平常の変動幅(暫定値)				
			H-3	単位	測定期間	最大値の採取年月	
陸水	水道水	蛇口水	境港市上道町	Bq/L	H27~R03	ND ~ 0.47	H27.05
		米子市河崎	ND ~ 0.37			H28.05	
	原水	米子市福市	ND			—	
池水	表層水	境港市小篠津町	ND~0.69			H27.11	
海水	表層水	米子市葭津地先(中海)	ND ~ 0.48	Bq/L	H27~R03	H27.10	
		米子市大篠津町地先(美保湾)	ND ~ 0.39			H27.11	

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(H27~R03年度)とする。

ウ ストロンチウム

試料	部位	採取地点	平常の変動幅(暫定値)				
			Sr-90	単位	測定期間	最大値の採取年月	
陸土	表層	境港市馬場崎町	0.30~ <u>0.43</u>	Bq/kg 乾土	H30~R03	R03.07	
		米子市河崎	ND~0.47			R01.07	
	下層	境港市馬場崎町	0.31~0.34			H30.07	
		米子市河崎	0.23~0.41			R01.07	
農産物	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	0.013~ <u>0.022</u>	Bq/kg 生	R01~R03	R03.12
海産物	ワカメ	—	境港市近海	ND~ <u>0.12</u>			R03.04
海産物	イワガキ	身		境港市近海	ND~0.045	H30~R03	R02.07

※ 「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間の最小から最大値までの範囲とするが、測定開始から10年経過しないため、暫定値(各測定開始年度~R03年度)とする。

(参考) プルトニウム

試料	部位	採取地点	Pu-238	Pu-239+240	単位	採取年月
陸土	表層	境港市馬場崎町	ND	ND	Bq/kg 乾土	R01.07
		米子市河崎	ND	0.029		
	下層	境港市馬場崎町	ND	ND		
		米子市河崎	ND	0.027		

※ 「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）、平成 30 年 4 月、原子力規制庁監視情報課」に基づき、実施範囲全域において最低 1 回の調査を行ったもの。